

## 観点別学習状況の評価（A～C）の事例とその評価基準

### 1 評価のねらい

生徒の様子は素直で真面目な子が多く、こちらが指示したことは一生懸命行うことのできる生徒たちである。しかしその一方で、学習に対する意欲の低い生徒が多く、特に理数系の科目について強い苦手意識を持っている生徒が多い。

そこで単元の最初の授業において、授業前後による理解を可視化することにより、「理解できた」という実感をもたせるとともに、物理では何を意識して授業を受けていくべきかを理解してもらうために今回の実践を行った。

### 2 評価基準 【主体的に学習に取り組む態度】の評価

「仕事と力学的エネルギー」の単元における導入授業で行った。授業の最初と最後に5分ずつ時間を設定し、振り返りシートに「力の仕事」について記述させ、授業の前後での記述内容の変容から主体的に学習に取り組む態度を評価した。個々の理解度を見るため、周囲と相談することのないように指示をした。授業後の記述の中に「力の向き」についての記述が追加されていた場合や、仕事の正負についての記述があった場合を評価Aの基準とした。

A 物理における仕事について、複数の箇所で具体性や正確性をもって説明しようとしている。

B 物理における仕事について、具体性や正確性をもって説明しようとしている。

C 物理における仕事について、具体性や正確性をもって説明しようとしていない。

※Cの場合は、個別に面談をして、授業中のどこでつまづいているのかを把握し、改善を促す。

### 3 評価の事例及び状況

#### 【評価Aの例】

力の向きについての記述があり、仕事の正負について説明している。さらに、仕事とエネルギーの関係について正しく捉えており、複数の箇所で具体性・正確性をもって説明しようとしていることから、「十分満足できる状況」(A)と判断できる。

力の仕事とは？	
授業前	物体を動かす力
授業後	$W = Fx$ 力の向きが同じの時 正の仕事 $W = Fx$ 垂直の時 仕事しない $W = 0$ 逆の時 負の仕事 $W = -Fx$ 仕事をするとエネルギーが得られる

#### 【評価Cの例】

学習後もエネルギーを力と誤認したまま、具体性や正確性をもって説明しようとしていないことから、「努力を要する状況」(C)と判断できる。

力の仕事とは？	
授業前	加える時間 物体を動かす時に必要なり
授業後	物体を動かす力

全体の結果は、A…21名、B…14名、C…5名となり、多くの生徒に授業前後の理解の変容が見られた。仕事が「力」×「距離」で求まることだけでなく、力の向きの重要性にも気付くことができていたので、本時の目標を達成できたと考えられる。

### 4 留意点

今回の取組において、生徒は記述することに慣れておらず、想像よりも時間がかかってしまった。記述力、表現力を身に付けさせられるよう、継続的にやっていく必要がある。また、一部の生徒にはワークシートの記入の仕方が正しく伝わっておらず、授業中での説明を授業前の欄に付け加えており、前後での変容が見られなくなってしまったこともあった。したがって、記入法や何を評価するのかをもっと明確に説明する点に留意したい。